



“縁” “つながり” “絆”

社会教育スタッフ

企画幹 寺本 典則



- ① 年間30,000人
- ② 小学生約0.5%、中学生約3%
- ③ 全国で60万人 (H22調べ)

この数字分かりますか。幸せではない数字です。

- ① 自ら命を絶った人の数。しかも18歳未満の数は増加傾向にあります。
- ② 不登校者数の割合。
- ③ ニートや引きこもりとなっている人数

「認められている」「愛されている」などを実感できないままに日々を過ごしていたのではないのでしょうか。

少年の危機（「子育て支援の方法と少年教育の原点」より）

この言葉が使われたのは、生涯学習・社会システム研究者という肩書を付けておられる、三浦清一郎氏です。「大人の実感として、多くの少年がひ弱で、一人前には程遠い。引きこもりや不登校や非行のことは言うまでもない。頑張りも礼儀も規範意識も責任感も協力の態度も優しさも足りないという。それが少年の危機である。」 そうだと思われた方もあると思います。氏は続けます。「日本社会の少年の危機は、学校も家庭も地域も、子育てには関心があり努力もしているのに成果が上がらないことにある。それは、理論と方法が間違っているからだ。日本の子育てには、『子どもの視点』だけが強調されて、『社会の視点』が欠如している。」

効果のある学校（力のある学校）の存在

『学校の力』は、『家庭の力』や『地域の力』と組み合わせさせてこそ、その効果を発揮しうる。そのつな

がり格差が、子どもたちの学力形成に積極的な影響を与える。子どもの学力が高い地域はその人間的つながりである『社会関係資本』が高い地域である。」と、大阪大学の志水宏吉教授が、「力のある学校の探求」に著しておられます。

そうした中…

島根県では、「ふるさと教育」に取り組んで8年目になります。地域では公民館がこのつながりづくりを「地域力醸成」として頑張っているのですが、これを活用して、管内の学校では、学校の中にふれあいルームを設けたり、放課後に中学生が小学校へ、「遊び隊」として出かけたりするなど、教育課程の中に位置づける35時間以上に、つながりを創り深めるプログラムが進んでいるところもあります。また、ほとんどの市町村に、その後導入された「学校支援地域本部事業」でコーディネーターが置かれたことはそれを一層充実させています。

「コーディネーターりょくカアップ講座」

先日、社会教育研修センター事業で、講師の広島経済大学志々田まなみ准教授は、「学校・家庭・地域の良い関係としての『学び合い』を創っていくには、その間にあって軽快に連動させていくコーディネーターの役割が重要である。さらにそのコーディネーターに、教育委員会が事業を通して、ビジョンを示し支援をしていくことで、より一層連携は強まり、効果が表れる。」として、コーディネートの重要性を説かれました。

合言葉は「出番」「役割」「承認」

「学校・教師とのつながり」「家庭・家族のつながり」「地域社会のつながり」での良い関係は、人を育てます。そして、学校にも家庭にも地域にも活力が生まれ、『住みたい地域』となります。「コーディネート」を意識し、「ふるさと教育」など、それぞれの活動の充実を願っています。3学期は特に来年度に向けて、「出番」「役割」「承認」を合言葉に、活動への「ふりかえり」をお願いします。

派遣社会教育主事より

派遣社会教育主事とは、緊急の課題である事項（①家庭、学校及び地域が連携協力した社会教育事業の推進 ②島根の地域の特性を生かしたふるさと教育の推進 ③広域的な市町村の枠組みの拡大に対応した地域社会における人づくり、地域づくりの推進）に重点を置きながら、派遣先市町村教育委員会において社会教育行政及び生涯学習振興行政に関する事務に従事するものをいいます。

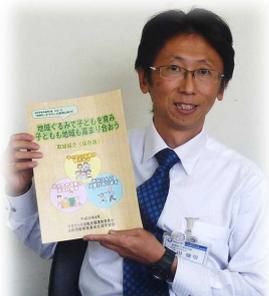
浜田教育事務所管内では、5名の派遣社会教育主事が4つの市町に配置され、各市町の社会教育・生涯学習への助言を行い、県社会教育課事業（ふるさと教育推進事業、放課後子どもプラン、実証！「地域力」醸成プログラム、学校支援地域本部事業等）の推進・支援を継続的に行っています。

今回は5名の派遣社会教育主事それぞれの思いを紹介します。

地域ぐるみの子育ち

浜田市

派遣社会教育主事
花田 健司



浜田市では、公民館を拠点として学校と地域を結ぶ「学校支援地域本部事業」を全市で取り組み始めて5年目になります。子どもたちがよりよく育っていくためには、学校・家庭・地域がそれぞれの役割と責任を自覚し、地域ぐるみで取り組みを進めていくことが大切だと私は実感しています。

この事業推進にあたって重要な役割を担っているのがコーディネーターの皆さんです。浜田市では公民館職員を中心に84名の方がおられます。その中のある方がこんなことを言っておられました。

「お誘いした地域の方が学校へ行かれ、子どもたちと触れ合い、帰られるとき、笑顔で『また来たいな』って言われるのがとっても嬉しいんです。我々は学校・先生・子どもたちの応援団なんです。」

浜田市の先生方、お問合せ等は最寄りの公民館へお尋ねください。

「親学プログラム」 体験しませんか？

浜田市

派遣社会教育主事
河本 誠二



派遣社会教育主事として、3年目を迎えました。地域に出向いてみると、新たな出会いがあります。学校での出来事を楽しそうに語る方、子どもたちにパワーをもらったと元気な声で話される方、学校に行くことを楽しみに準備を進められる方、様々な形で地域の方の想いに触れさせていただいています。

ところで、「親学プログラム」は体験されましたでしょうか？このプログラムの特徴は、親としての役割や子どものかかわりについて、気づきの機会となること、そして、参加者同士の新たなかかわりが生まれることです。今年度、浜田市内では2つの幼稚園で取り組まれました。ぜひ、一度体験して、学校または学級の保護者のみなさんと新たな形でのかかわりをもたれてみてはいかがでしょうか。親学プログラムのこと、その他のこと、気軽に声をかけていただけると嬉しいです。

子どもも地域も
みんな笑顔に
大田市
派遣社会教育主事
山藤 真樹



大田市派遣社会教育主事として、4年目の勤務をしています。主に、学校・家庭・地域が連携協力した事業（「学校支援地域本部事業」、「ふるさと教育推進事業」、「放課後子どもプラン」等）に係る業務に携わっています。また、社会教育を手段としてまちづくりを進める公民館活動の支援にも励んでいます。

これらの取組を通して一番感じることは、子どもたちに地域の方々がかかかわると、子どもも地域のみなさんも笑顔でいっぱいになることです（地域のみなさんは本当に褒め上手です）。そこでは、子どもたちの自尊感情や自己有用感がしっかり育まれているんだなあと感じています。“地域の子どもは地域で育む”気運を醸成し、子どもも大人も笑顔あふれる地域づくりに向け、これからも精一杯頑張っていきたいと思っています。

いろいろ
やっています
川本町
派遣社会教育主事
松原 聡



こんにちは！4月から川本町教育委員会に勤務しています。先生方には「社会教育主事はどんなことするの？」と聞かれることがあります。各市町で取り組む内容はそれぞれですが、学校・家庭・地域が連携して、様々な課題を地域の人と共有し、地域の人同士、顔を合わせながら解決していけるようにお手伝いをさせていただいています。

今、特に力を入れているのは次のことです。①社会人権・同和教育の推進体制の確立、②ふるさと教育の推進、③子どもの体力向上支援と地域の指導者育成のための推進、④公民館を地域の拠点とした学び合いなどです。学校・家庭・地域社会が連携して、川本町の未来を担う子どもたちを町民総参加で育む教育が推進できるように、元気と笑顔で頑張っていきたいと思います。よろしくお願ひします。

社会教育主事の魅力
美郷町
派遣社会教育主事
小谷 明浩



今年度より美郷町派遣として勤務しています。美郷町での勤務経験は初めてでしたので知り合いの方がほとんどいみせんでしたが、実際に勤めてみると、様々な方との出会いが新鮮で、一から人間関係を築いていく楽しさを味わっています。

社会教育における取組業務は多岐にわたります。それゆえ、出かけていくこと、呼んでいただくことがたくさんあります。派遣社会教育主事の魅力は、地域の魅力的な方との出会いがたくさんできるという点です。80歳を超えて未だ、地域の貢献や学校への支援を考えられたり、人と人とのつながりを大切にされたりする方と出会うと、こちらが身の引き締まる思いがします。

学校教育と社会教育の関係性はどうかあるべきか。社会教育の取組を学校現場の皆さんにも知っていただくことも私の仕事です。

すべての子どもたちが 安心して楽しく 学び合うために

学校教育スタッフ指導主事

井口 猛



いつもお世話になっております。各学校におかれましては、日頃からの人権・同和教育の推進と充実に向けてのご尽力に感謝と敬意を表します。

さて、すべての子どもたちが安心して楽しく学び合う学校・学級にしていくための人権・同和教育を進めるときに、教職員間、児童生徒間、児童生徒と教職員間の人間関係や、学校・学級の全体としての雰囲気などが、その基盤としてとても大切であると言えます。これまでの私自身をふりかえってみますと、人間関係作りにしても雰囲気づくりにしても悔やむことばかりが浮かんできて反省することが多くあります。

ここで、以下の事例を「隠れたカリキュラム」の視点で考えてみていただけたらと思います。

●A先生の思いこみ？

中学校1年生の担任であるA先生は、クラスの生徒たちがお互いに自分の考えを活発に発言し合えるようなクラスにしたいと願い、日々の学級づくりや授業づくり等に熱心に取り組んでいました。

ところが、クラスの中には活発に発言する生徒もいれば、ふだんから小さな声で発言する生徒もいました。A先生は、その小さな声で発言する生徒に大きな声で発言してほしいと思い、いつのころからか他の生徒たちに「(その生徒の発言が)聞こえましたか?」と聞くようになっていました。その生徒の発言に至るまでの過程を大事にしなければならぬにもかかわらず、結果を重視してしまったのです。

やがてそのクラスには、大きな声で発言できることはいいことで、そうでないことはよくないことだという雰囲気がつくられていきました。大きな声で発言できないその生徒に対して見下すような視線や、中傷するかなのような言動が見られるようになってしまいました。A先生がこの様子に気づいたのはしばらくたってからのことでした。

特定の生徒の言動に対する改善点の指摘が、その生徒の否定的な評価としてクラス内の他の生徒たちに伝わり、固定化していくことにもつながったのです。

個々の児童生徒が、一人の人間として大切にされている実感を持つことができる学校・学級づくりのためには、まず、教職員の姿勢そのものが人権・同和教育の重要な部分であることを再確認し、「隠れたカリキュラム」の視点で日々の実践を見返すことが必要ではないでしょうか。

●「隠れたカリキュラム」

「隠れたカリキュラム」とは、教育する側が意図する・しないに関わらず、学校生活を営む中で、児童生徒自らが学び取っていく全ての事柄を指すものであり、学校・学級

の「隠れたカリキュラム」を構成するのは、それらの場の在り方であり、雰囲気といったものであります。

●「隠れたカリキュラム」の具体例

「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」では、さらに「いじめ」の問題を例にあげ、「『いじめ』を許さない態度を身に付けるためには、『いじめはよくない』という知的理解だけでは不十分である。実際に、『いじめ』を許さない雰囲気が浸透する学校・学級で生活することを通じて、児童生徒ははじめて『いじめ』を許さない人権感覚を身に付けることができるのである。だからこそ、教職員一体となつての組織づくり、場の雰囲気づくりが重要である」(指導等の在り方編P9)と述べています。

例えば、教職員が級友とのトラブルを訴えた児童生徒の声を真剣に受け止めようとせず、聞き流して何も対応しようとしなかったり、他の教職員や保護者の悪口を平気で児童生徒の前で言ったり、また職員室での教職員間の会話が全く冷たい雰囲気が漂っているような学校では、いくら「いじめをやめよう」などと語りかけても、決して児童生徒の心に響くことはありません。そればかりか、反対に陰で「いじめ」をしたり、傍観したりすることを助長してしまうことになりかねません。

●望ましい「隠れたカリキュラム」の実現のために

このように、教職員間、児童生徒間、教職員と児童生徒間の人間関係や、学校・学級の全体としての雰囲気などは、まさに学校教育の基盤をなすものと言えます。この基盤づくりのためには、まずもって教職員一人一人の人権尊重の理念に対する理解と認識を深めていく必要があります。

さらに、互いに考えを聞き合う、言い合う、受け入れる、提案し合うなどの活動を大切にしながら、人権感覚を高め合う教職員研修を学校全体で進めていくことが求められています。

※島根県教育委員会から、平成21年3月に「人権教育資料集Q&A」が発行されています。

本資料の「Q&A」は、県教育委員会がこれまでに発行した「同和教育指導資料第19・20集」「人権教育指導資料」を踏まえながら、「指導等の在り方編」の理解を進めるために作成したものです。本資料の活用により、人権教育がより一層充実されることを期待しています。

Q 教育活動や日常の生活場面で、あなたは、自分の言動に決めつけや偏見がないかをどのようにふりかえていますか。または、ふりかえればよいと考えますか。

《島根県教育委員会発行「人権教育資料集Q&A」から引用》

本との出会い



学校教育スタッフ指導主事

羽柴 千晴

「私が高村光太郎の詩と出会ったのは中学1年の時でした。なにげなく図書館で手にした『もうひとりのぼく』という本の中に、『智恵子抄』の中の詩がいくつか載っていたのです。私はその詩を読んでいるうちに、なぜか心が透きとおっていくような気持ちになりました。でも、その詩にはちょっと読んだだけでは理解できない難しい面もたくさんあったので、もっと詳しく知りたいと思い、図書館で『智恵子抄』を探して読みました。また、作者についても調べてみました。調べていくうちに、だんだんと光太郎のこともわかってきました。」

これは私が中学2年生の時に書いた作文の書き出しです。そのころの私にとって図書館は、なにげなく立ち寄る居心地のよい場所だったようです。

今年も学校訪問の際に学校図書館を多くみせていただきました。また、情報活用能力の育成に重点をおき、様々な支援と工夫がなされた授業も参観しました。県の重点施策として「子ども読書活動推進事業」の展開が始まって4年目。多くの学校が「人のいる図書館」になり、学校図書館がもつ「読書センター」「学習・情報センター」としての機能が少しずつ充実してきたと感じます。それは、昨年度、各小中学校にお願いしたアンケート調査の結果にも成果として表れています。

平成23年度子ども読書活動推進事業についての 学校アンケート集計結果概要（抜粋）

【体制・組織】平成22年比で10ポイント以上の差は太字

- 学校図書館に係る年間指導計画を作成している学校が大幅に増えている。

学校図書館の年間計画がある学校	平成22年	平成23年	ポイント差
小学校	66.1%	90.8%	24.7
中学校	51.0%	85.0%	34.0

- 学校図書館活用教育に関する校内研修を実施する学校が増えている。

校内研修を実施した学校	平成22年	平成23年	ポイント差
小学校	72.8%	93.4%	20.6
中学校	34.0%	40.0%	6.0

【学校図書館活用教育】

- 情報活用のためのスキル学習を行う学校が大幅に増えている。

取り組んだスキル学習		平成22年	平成23年	ポイント差
マッピングを用いた課題設定	小	31.8%	43.9%	12.1
	中	26.0%	37.0%	11.0
引用の仕方	小	41.8%	70.2%	28.4
	中	48.0%	55.0%	7.0
情報カード・付せんを使った情報整理	小	49.4%	73.7%	24.3
	中	37.0%	50.0%	13.0
要約の仕方	小	49.4%	71.9%	22.5
	中	42.0%	49.0%	7.0
レポートや新聞へのまとめ方	小	74.9%	91.7%	16.8
	中	67.0%	83.0%	16.0

読書環境が整い、学校図書館活用教育を積極的に進めている学校の先生方からは子どもたちが変わっていくのを実感するという声をよく聞きました。

今回の学習指導要領で新たに「言語活動の充実」が掲げられました。思考力や判断力、表現力を高める観点から、知識・技能の活用を図る学習とその基盤となる言語能力を育成する活動が重視されています。各教科の授業ではこれまでも観察・実験などの記録や発表、話し合い活動、レポートの作成などの活動が行われてきましたが、これからは授業の中に意図的・計画的に位置付けることにより各教科を通じて「言語活動の充実」という視点から授業改善を図っていくことが求められます。学校図書館活用教育は「学び方を学ばせる」教育だと言われますが、より確かな情報活用のためのスキルが子どもたちに身につけば、それぞれの教科の特性に応じて、問題解決的な学習や主体的、探究的な学習が積極的に行われるようになり、言語活動を通して基礎的な知識・技能を活用する能力や思考力、判断力、表現力が高まっていくと考えます。

私が中2で書いた作文は次のようにしめくります。

「こうして私は『もうひとりのぼく』という一冊の本から、光太郎の詩にめぐり会うことができました。人生には、人と人との美しい出会いがあるように、人と本とのすばらしい出会いもあります。これから先も、私は良い本との出会いを求め続け、大切にしていきたいと思っています。」

中学生の頃のちょっと恥ずかしくなるような文面ですが、今でもこの気持ちは変わっていません。

多くの子どもたちが本との出会いを重ね、やわらかい豊かな心と自分の力で答えを見つけていくたくましさを持ち、楽しく読書に親しんでほしいと思います。

新たな学びを支える教員，学び続ける教員をめざして

様々な教育課題を解決するために、わたしたち教員は学び続けることが求められています。しかし、“やらされる”研究や研修は疲労感と多忙感につながります。各学校における日々の仕事を通して資質能力の向上を図り、それぞれの立場から学校経営への協働参画意識を高められるようにしていきたいものです。

○「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申）」より
中央教育審議会 平成24年8月28日

■21世紀を生き抜くための力を育成するため、これからの学校は、基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲の向上、多様な人間関係を結んでいく力の育成等を重視する必要があります。

■これらは、さまざまな言語活動や協働的な学習活動等を通じて効果的に育まれることに留意する必要があります。今後は、このような新たな学びを支える教員の養成と、学び続ける教員像の確立が求められている。

〈教員に求められる資質能力〉

i 教職に対する責任感，探究力，教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力

ii 専門職としての高度な専門的知識

・教科や教職に関する高度な専門的知識

・新たな学びを展開できる実践的指導力

・教科指導，生徒指導，学級経営等を的確に実践できる力

iii 総合的な人間力

〈専門職としての高度な知識・技能〉

・教科や教職に関する高度な専門的知識（グローバル化，情報化，特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む）

・新たな学びを展開できる実践的指導力（基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力・判断力・表現力等を育成するため，知識・技能を活用する学習活動や課題解決型の学習，協働的学びなどをデザインできる指導力）

★**島根県教職員研修計画** では… 島根県の教職員として求められる基本的な資質・能力

・豊かな人間性と教職に対する使命感

・子どもの心身の発達と心の動きに対する理解と対応

・職務にかかわる専門的知識・技能及び態度



○「教職経験や職務に応じた研修，教育課題を解決するための研修」の一層の見直し・精選

【初任者研修・ミドルリーダー養成・管理職研修】

○教育センター研修とOJTの連動（教育センター研修を踏まえた校内研修の設計）

今年度の研修では…



【4月26日】

管内前期進路保障連絡協議会

KJ法を用いてテーマを絞った話し合いを行いました。ワークショップ型の協議は校内授業研究にも多く用いられるようになりました。



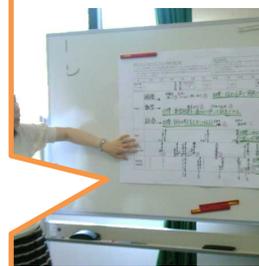
【8月7日】小・中学校司書教諭研修

司書教諭等のスキルを高めるために「課題設定の仕方」「情報カードの使い方」「プレゼンテーション資料のまとめ方」の3つの演習を行いました。

【6月29日】

小・中学校キャリア
ア教育担当者研修

グループで、架空の学校をモデルにキャリア教育の年間指導計画を作成し、発表しました。



【10月17日】

小・中学校校長研修Ⅱ

講話「経営ビジョンと人材育成」（株式会社一番街・戸津川健代表取締役社長）の中に出てきた「フィッシュボーン図」。話し合いで決定した経営方針が会議室に貼ってあると紹介されました。



たくさんのご応募、ご参加ありがとうございました！！

第2回島根県神話絵画コンクール

★島根県教育委員会教育長賞

大田市立川合小学校 3年 中島 優月さん「オロチとスサノオ」

★優秀賞

大田市立静間小学校 5年 松直 翼さん「迫力満点のおろち」

浜田市立第三中学校 2年 遠藤 美夏さん「ヤマタノオロチ」

★優良賞

邑南町立日貫小学校 3年 岩本 凌弥さん「神（じん）のまい」

大田市立静間小学校 5年 田中 麗夏さん「すごい動きのおろち」

大田市立静間小学校 5年 月森 陸さん「すごい動きのおろち」



大田市立川合小学校
3年 中島優月
「オロチとスサノオ」

しまね数リンピック

今年は県内で890人（うち浜田管内では163人）が参加して開催されました。参加者の感想を紹介します。来年度の参加もご検討ください！

すごく頭をひねりました。でも、解けると「やった」と思いました。来年も参加したいです。
(小学校個人の部)

難しかったけど問題が解けたときはうれしかったです。協力して二人で問題が解けたのでおもしろかったし思い出できたのでよかったです。(小学校ペアの部)

難問ばかりで解くことは大変でしたが、答えが出たときのうれしさはとても大きかったです。今まで習ったことを使って解けたので、不思議な感じがしました。
(中学校個人の部)

今回の図形の問題がすごくおもしろかったです。来年きてもあんな問題があればいいなあと思いました。
(中学校ペアの部)



【10月28日】
数リンピックの様子
浜田合庁会場にて

しまね調べ学習プレゼンテーションコンテスト

★最優秀賞

邑南町立石見中学校 2年 岸本 燦太さん

「畳の文化を見直そう」

審査発表・表彰後の記念撮影



【11月28日】本選会の様子
島根県民会館 大会議室にて

★優秀賞

邑南町立口羽小学校 6年 神田彩実さん・三上日和さん

「ごはんのみそ汁の歴史

～なぜ日本人は米のみそ汁を食べ続けてきたのか～



自作のフリップを実物投影機を使って発表する形式。実物を見せたり朗読を取り入れたりするなど、発表の仕方に工夫が見られました。シンプルさの中にも力強さがあり、説得力のある発表だったという講評でした。

退職支部活動について

互助会浜田支局 大崎 章子

退職支部が発足して30年になります。

会員の退職後の福利の向上と生活の安定をはかることを目的とする退職互助医療の事業を行っております。

浜田管内には、「浜田、大田、江津、邇摩、邑智」と5支部あり、約1,525名の会員が在籍しております。各種趣味の会や人間ドック補助、スポーツ大会等の事業を実施し、毎回たくさんの会員と方々に、ご参加いただき好評をいただいております。

また、退職会員への情報連絡を図るため、年4回「退職互助会だより」を発行し、本会の事業報告、文化講演会のご案内、島根県内各支部だより等々の情報を提供しております。会報を「手配り」することによって退職会員の意思疎通や単身者等への配慮を行うことができます。

連絡員の先生方には大変お世話になっております。厚くお礼申しあげます。

「学習評価を生かした授業改善、授業づくりのためのハンドブック」「実りある授業のために」

まずは担当教科、学校で柱にしている教科をご覧ください！

人権同和教育、防災教育、キャリア教育、学校図書館教育、食育、環境教育・・・等々学校教育には多様な期待が寄せられています。しかし、基本は日々の授業です。分かる授業、楽しい授業、児童生徒主体の授業の構築を！
そのために情報を得たいけれどなかなか時間がない・・・そういうときには、ここへアクセス！！

4 評価規準と展開例

1) 単元名
 図表をつかって報告しよう【第2学年】
 ～資料を効果的に活用してわかりやすく話す～

2) 単元のねらい
 ・調べたことについて聞き手が理解しやすいように工夫して説明しようとする。【国語への関心・意欲・態度】
 ・社会生活の中から課題を決め、報告するための材料を多様な方法で収集・整理してまとめることができる。【話す・聞く能力】
 ・わかりやすく説明するために要点を示したり、図表を活用したりして報告することができる。【話す・聞く能力】
 ・学年別漢字配当表に示されている漢字を適切に使う文章を書くことができる。【国語についての知識・理解・技能】

3) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	国語についての知識・理解・技能
調べたことについて聞き手が理解しやすいように工夫して報告しようとしている。	①社会生活の中から、マスコミ等で取り上げられている話題の中からマッピングの手法を使ってテーマを見つけ、情報カードを使って報告するための材料を収集・整理してまとめている。(ア) ②わかりやすく説明するためにフリップを用いて要点を明確にしたり、図表を効果的に活用して報告している。(ウ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を適切に使う文章を書いている。(1)(1)(イ)

「学習評価を生かした授業改善、授業づくりのためのハンドブック」(中学校国語の例)

義務教育課HPへ。吹き出しの中のコメントがポイント

実りある授業のために 小学校理科

【H24.秋】島根県教育委

ポイント

- ◆理科を学ぶ意義や有用性に対する意識を高揚させていくこと
- ◆体験と言語で織りなす問題解決の展開に関する指導の充実
- ◆観察・実験等の多様な体験活動の重視

理科を学ぶ意義や有用性に対する意識を高揚させていくこと

◆理科の勉強が好き
 ◆理科の授業内容がよくわかる
 【関心・意欲が高い】

◆理科の勉強は将来あまり役に立たない
 【有用感が低い】

【図1：教科の好き・嫌い】

【図2：教科が役立つか】

(図1、図2) 平成24年度全国学力・学習状況調査 島根県データ
 理科に対する児童の認識は、「理科の学習に対する意欲は他の教科と比較して高いといえるが、そ
 大切だ」という意識が高くない」という傾向が続いている。理科を学ぶことの意義や有用性を実感す
 会をもたせ、科学への関心をもちさせる観点についてさらに重点的に指導する必要がある。

【理科を学ぶ意義や有用性を実感できる授業の例】

◆第6学年「電気の利用」

- 単元の内容
 手回し発電機などを使い、電気の利用の仕方を調べ、電気の性質や働きについての考えをもつことができるようにする。
- ア 電気は、つくりだしたり蓄えたりすることができること。
- イ 電気は、光、音、熱などに変えることができること。
- ウ 電熱線の発熱は、その太さによって変化する。
- エ 身の回りには、電気の性質や働きを利用した道具があること。



「実りある授業のために」(小学校理科の例)

島根県教育用ポータルサイト 「幼稚園／小・中学校」 → 「義務教育課」
 → 「学力・心の教育推進グループ」 → 「教育課程関係」